

現代日本学社会分析研究演習 I / 現代日本学演習 III 「現代日本における社会問題の分析」

# 第1講 文献検索とデータベース利用

田中重人 (東北大学文学部准教授)

[テーマ] 先行研究の探索

## 1 書誌情報について

文献を特定するのに必要な情報を「書誌情報」(bibliographical information) という：

- 書籍の場合、著者名 / 出版年 / 表題 / 出版社
- 雑誌の場合、著者名 / 出版年 / 論文表題 / 雑誌名 / 巻,号 / 掲載ページ (通常は雑誌名だけで特定できるので出版社は不要であるが、CiNii Books などてたしかめる)

論文でこれをどのように表記するかは、自分の分野の代表的な雑誌等のルールを確認しておくこと。

- 社会学の場合：日本社会学会『社会学評論スタイルガイド』(第3版) 第4章 <<https://jss-sociology.org/bulletin/guide/document/>>

URLなどを示す場合は、つぎのような優先順位で考えるとよい：

- DOI (<http://doi.org>) や Handle 識別子 (<http://hdl.handle.net>) があればそれを書く (武田 2012)
- 複数の URL がある場合は、“Permalink” などと指示されているものか、なるべく短いものを選ぶ
- URL に #, ?, & が入っている場合は、そこから先を取り除いてみる

電子化された (インターネットで公開された) 文献は、従来の (印刷・製本された) 文献とは若干あつかいが異なる。

- 削除・変更されることが多く、その履歴がわかりにくい 自分の見たバージョンをダウンロードするか、<http://web.archive.org> などのアーカイブ (魚拓) サイトに登録しておくことよい
- 特定するために何の情報が必要かが確定しにくい。著者名や日付が不明であることも多い。

## 2 先行研究を探すということ

### 2.1 探す対象

- 論文・書籍 (研究成果をまとめた文章)
- 資料・データ (研究の対象となるもの)
- 研究者・研究機関
- 研究プロジェクト (研究資金の流れ)
- 雑誌・データベース

## 2.2 探しかた

- 人に聞く
- 入門書・概説書・展望論文、一般向け雑誌、ウェブサイトなど
- 芋づる式
- 白書、データブック
- 各種データベース

一度の探索で網羅的に情報が集められるわけではないので、ふだんからアンテナを立てておくことが大切である。

## 3 論文・書籍のデータベース

研究成果は論文や書籍として発表される。

- 国立国会図書館サーチ <<http://iss.ndl.go.jp>>
- CiNii Article <<http://ci.nii.ac.jp>> <http://tsigeto.info/2018/readg/r180420.html> など参照
- CiNii Books <<http://ci.nii.ac.jp/books/>>
- Web of Science <<http://webofknowledge.com/wos>>(GakuNin でログインする) <http://tsigeto.info/2018/readg/r180427.html> など参照
- Google Scholar <<http://scholar.google.com>>

そのほか、図書館のホームページ <http://www.library.tohoku.ac.jp> から「資料を探す」「データベース」タブを開いてみるとよい。

## 4 資料・データを探す

研究対象による。自分の研究分野の入門書や、代表的な研究機関のサイトなどを調べるとよい。

## 5 研究者・研究機関を探す

大学などでは、所属する研究者(教員・研究員・博士課程学生などをふくむ)の研究成果の情報を収集している。これを集積したデータベースが公開されており、そこから各研究者がおこなった調査の情報を得ることができる。

- 科学技術総合リンクセンター J-Global (科学技術振興機構) <<http://jglobal.jst.go.jp>>
- Researchmap (国立情報学研究所) <<http://researchmap.jp>>

また、研究者が個人的にウェブサイトを開設していたり、SNS等で情報発信していることも多い。

論文等について質問したい場合、著者本人に問い合わせてみるとよい。雑誌論文には著者所属やメールアドレスなどが書いてあることが多い。また上記の J-Global などでも連絡先を調べることができる。ただし、問い合わせの前に、公開されている情報をできる限り集めてから。

## 6 研究プロジェクトを探す

多くの調査研究は科学研究費補助金（文部科学省または日本学術振興会）などの助成を受けておこなわれているので、その研究課題のデータベース中に調査の情報がかなりある。

- 科学研究費補助金データベース（国立情報学研究所）<<http://kaken.nii.ac.jp>>
- 日本の研究.com <<https://research-er.jp>>

## 7 雑誌・データベースを探す

各研究分野には、通常、その分野の中心となる学術雑誌がある。そうした雑誌については、新刊情報をチェックするとともに、過去にさかのぼって読んでおく。

雑誌がつくられる過程（特に掲載する論文をどのように決めているか）に注意すること。

また、分野ごとにデータベースが作られていることも多い。附属図書館によるリスト <http://www.library.tohoku.ac.jp/search/database.html> など参照。

## 8 EndNote Web（文献情報整理サービス）について

Web of Science 画面上部の「ツール」「EndNote」から、メールアドレスを登録して使う。

- Web of Science でみつけた情報を保存できる
- CiNii などのデータベースからの情報も import できる
- いちど登録しておけば、学外からも使える

## 9 来週以降の予定 [講義後変更: 2021-04-27]

4/29 は授業はおこないません。ただ、Meet 会議室は、10:30 から開いておきます。質問したいことがある人は来てください。

次回の授業は、5/6 です。今回授業の続きと、論文の読みかたと発表内容についての授業をします。

そのあと（5/13, 20）の2回で、論文について発表します。

- 各自の選択した論文に基づいてグループを決める
- 各グループで、それぞれの選んできた論文について、空き時間に議論する
- 各自、自分の選択した論文について資料をつくる（授業開始時までには Google Classroom のストリームに投稿すること）

当日の発表手順は次の通り：

- 説明は、グループ内のほかの人がおこなう（2分）
- そのあと、論文を選択した本人が追加説明（1分）
- 全体で討論（10分程度）

報告すべき内容は次の通り：

- 論文の「問い」はなにか、それにどのような「答え」を出しているか、その根拠は何か
- 疑問点や批判など
- 内容を発展させる方向性

## 文献

武田英明 (2012) 「DOIって何?」(図書館総合展 2012 版) <<https://www.slideshare.net/takeda/doi2012>>